

図書館通信 — 9 —

1971. 4

図書館へのいざない

附属図書館長 天野 佳人

新入学生を迎えたこの機会に、わが図書館の規模と運営について、若干の説明を行ない、主として新入学生に対する、図書館のよき利用の奨めとしたいと思います。

そもそも大学に附属する図書館は大学における研究・教育・総合的教養の向上へ寄与することを使命とする重要な機関であります。したがって大学図書館は機能上総合図書館、研究図書館、学習図書館、保存図書館に類別されることもあります。それらの性格を併せもっていなければならぬとされています。さて静岡大学付属図書館という場合、これは本館と浜松分館と農学分館との総称

であります。ところで新入学生がさしあたってすぐ利用するのは本館ですので、今わたしは学習図書館としての本館について述べることにします。

本館は各学部の中心に位するその位置と建物の構造と設備と機能等の点からして、特に学習図書館としては優秀な図書館であると申せます。それは他の国立大学から関係者が始終、図書館新建設にあたっては必ずといってよい程、視察に訪れることによつてもわかります。

建物はご覧のとおり四層の堂々たるもので、総面積は約 4,500㎡です。設備も総体的に新しく整っています。閲覧室の座席は 584席あり、居心地は快適です。読書に疲れた頭と眼を慰めるものに、駿河湾を見渡せる丘陵の美しい眺望があります。

蔵書数は約20万冊で、うち学生が自由に閲覧できる開架式図書は3・4万冊（指定図書1・4万冊を含む）です。開架式図書のほか、書庫に収蔵されている図書もカードを繰って探し出し所定の手続で申込めば、閲覧できますから、労を惜まず活用願います。また本館では、複写サービスを実施しています。図書の一部を書写したいときは、低廉な費用で複写が即座にできるようになっています。

しかし不備や問題点がないわけではありません。蔵書数はまだまだ少ないし、蔵書構成にも大いに欠点があります。現に多くの学生から学習図書が少ないという不満が洩らされていることを聞知しています。ですから学生用図書をもつと充実することは急務中の急務であります。本館では純学生用図書が毎年相当量教養図書と指定図書として購入されています。昨年度は計 336万円、約 2,000冊でした。

文部省でも別に学生用図書購入費を新たに計上し各大学へ交付する計画だと聞かれています。それを是非とも実現してもらふ必要があります。

次に学生の要望の強い開館時間の延長（夜間開館）という問題があります。学生は毎日カリキュラムがぎっしり詰まっています、図書館を利用したいにも通常の開館時間では利用する時がないと訴えます。至極もつともです。現在では予算と館員数の不足に縛られていて、延長開館はまだ不十分であります。しかし、本館では学生の要望にこたえて、年二回の試験期はもちろん、それ以外の期間にも、でき

目	次
図書館へのいざない……………	P 1
去るに当つて……………	P 2
図書館利用法について……………	P 3
浜松分館利用案内……………	P 6
農学部分館利用案内……………	P 6～7
私のすすめたい本……………	P 7
東部地区図書委員会報告	} …… P 8
エトセトラ	
おしらせ	
人事移動	

去るに当つて

栗田鉄三

昭和34年9月に以前の大岩図書館に赴任アット言う間に12年近い歳月が流れてしまいました。

本館の新築、移転等については昨年1月にこの図書館通信が出し初められて以来、館長以下諸先生から玉稿を賜り、毎号に掲載させていただきました。

今年は浜松分館（工学部）の新築が実現されるでありましょうし、本館も当初計画通りにゆけば明年あたりに増築が行われましょう。

農学部も統合移転が決まっている以上、整備も時間の問題で、少くとも外観、建物の上からは一応すべてが完成することになります。

建物が出来て、中に何を装備し、どう運用してゆくか。資金の面と人員、人材とそれら見合う配慮がなされねばなりません、現実には中々むづかしい問題であります。本館の面積が5倍になったら、途端に電力料も5倍かかります。作業用員が1人もいないというのも、ここの本館が全国のモデル館であることを考えれば正に奇観でしょう。

仕事をし、館を運営してゆく上には当然に人と経費がなくては出来ませんので維持的経費の確立、館員の増員とその体質改善が最大の急務でした。

いろいろあれこれ考えては見ても中々事が急に実現するなどという訳には参りません。

やり掛け始めて、実績を作るまでに到らなかつたこのうち、最も心に懸るのは未整理図書の再整理作業でした。旧制高校時代のものが約4万冊、旧浜松分館から移したのものなど4万冊、計8万冊が書庫の中に別置されていますが、これを分類統一再整理して一連番号に配置し直す大事業です。数年後には農学部からの3万冊の問題もあつて、事は急を要するのです。

1頁よりつづく

る限りの延長開館を実施していきたいと考えています。

わが付属図書館は静岡大学の発展拡充に伴って拡充の途上にあります。本年度浜松分館は新築される予定ですし、本館も来年度の農学部の片山移転に伴い増築される予定です。そうなれば二階の事務室が移り閲覧室は窓際まで拡張されるでしょう。

現在本館の年間増加冊数は和8,500、洋4,500、計13,000冊位ですから、この年間増の約半量程度づつは少くとも再整理してゆかないと、正に百年河舟を待つことになります。

現実に年間業務量の5割相当をどうこなしてゆくか。他大学も参考にし昨秋は殆んどこの部内検討に追われ、やつと目途をつけた所です。格別、人的、物的な援助も期待出来ない以上、余程思い切つた工夫を打出さねば出来ません。

以下その計画の一端を申述べますが、言うなれば今までの10年間はそのための長い準備期間だつたような気がしてなりません。

次に整理作業を司書でもない私から申述べるのは聊かがひけます。国立国会図書館の印刷カード（和書）が発売されるようになり、当館でもこの5年間に約7・5万枚のカードが集りました。発売から1年間位の間は1枚3円で分売してくれます。所要枚数を発注すれば、手回も省け綺麗なカードが揃いますが、発注、入手までに時間のかかるのが難。

これも発売後1年までで、それからは原カードを機械的に複製するしかありません。いずれの場合も時間的におくれるのは上述の次第。早く処理するには矢張り普通司書が手書きで原カードを作り、それを和タイプに打ち所要枚数を印刷するまでの工程を業者に外注してゆく。どう検討してみても現段階ではこれ以上の方法は考えられません。1冊5枚なり7枚のカードを複製しても、それにサブタイトルを打ち込む作業、カードボックスにファイルする作業、旧い本のラベルを剝し新ラベルを貼り直し、登録番号、分類記号の打ち直し等、これが10万冊以上かと思うといささか天文学的な感じも致します。

次に雑誌目録。1958年以来作つていませんので、せめて本館関係のものだけでも今年はと思つていました。

それから開架図書の充実。43年に移転、2年続きの指定図書のこともあつて、実現出来ませんでした。今夏はせめて1万冊でも新規に出して欲しい。自分の残した仕事を他人に押しつけるようで甚だ申し上げ難いことばかりですが、心からお願ひ致します。

（理学部事務長、前図書館事務長）

図書館利用法

大学生としての学園生活を意義あるものにするためには、なすべきことが非常に多いと思われますが、最も重要なことは、学習ならびに学問の自由な研究をより豊かに充実させることであります。そのために大学図書館は、大学における教育、研究活動の重要な機関であるとともに、総合的教養の場としての役割をもつて存在しています。

最近、情報化時代の社会に生きる人間として、生涯教育の必要性がよく聞かれますが、好むと好まざるにかかわらず、私達は多量、多様化した情報の渦中にあり、その中から自分の必要とするものを見出してゆくテクニックを学びたいものです。

それには先ず、情報選択のひとつの場である図書館の利用法を身につけて、研究、学習に役立てて下さい。

本学には現在、約 200,000冊の図書と 2,400種の雑誌、紀要類が所蔵されていますが、必ずしも充分とはいえません。レファレンスや複写サービスの強化、施設の整備、効率的な運用等によつて、利用者の要求に応ずることができるように努力してゆきたいと願っています。

次に本館についてご案内します。

〈開館時間及び休館日〉

1. 開館時間

9時30分～17時まで。ただし土曜日は12時まで。延長開館の場合には変更があります。11時30分～13時までと16時30分以降は閲覧・貸出事務は行ないません。

2. 休館日

日曜日、祝祭日、本学創立記念日（6月1日）
年末年始、その他臨時休館日。

〈図書館の資料〉

1. 図書館にある資料

（開架図書）

① 一般図書

学生の学習及教養のための図書で、4階開架図書閲覧室（324席）に18,000冊が配架されています。

② 参考図書

調査・研究の参考となる図書で、書誌・目録、索引類、百科事典、年鑑、統計書、辞典、人名辞典、便覧、地図、図譜、法席集等があります。3階参考図書コーナー（48）に2,000冊が備え付けてあります。

③ 雑誌

3階雑誌コーナー（24席）に一般雑誌、学術

雑誌等 100種が配架されています。

④ 新聞

玄関に入って左側の新聞閲覧室（24席）に11種がおかれています。

⑤ 指定図書

教養部学生を対象として、教官が講義の内容に関連ある資料を指定し、学生はこれを読んで学んでゆくいわゆるリザーブ・ブックの制度による図書で、2階指定図書閲覧室（168席）に14,000冊が配架されています。

（書庫内図書）

① 2層（1・M階）の書庫に主に研究書・貴重書・古書等が約150,000冊所蔵されています。

② M階仮書庫に新聞・雑誌・紀要（各大学、研究所などの研究論文集）のバックナンバーが所蔵されています。

①②を利用の際はカウンターで所定の手続きをしてください。

2. 各部局研究室にある資料（約30,000冊）

教官の調査、研究等のために備えられた図書で、了解を得て利用することができますから、3階カウンターに申し出てください。

〈利用〉

1. 入退館

① 入館

入館時には、**必ず学生証を携行**してください。受付で学生証と引き換えにロッカーの鍵を受け取るとともに、入館票に必要事項を記入してください。

館内で使用したい図書は2冊まで持ち込めますから、図書持込許可票に、その図書の著者・書名等を記入してください。

ノート、筆記具以外はロッカーに納めてください。

② 退館

ロッカー鍵を受付に渡し、その引き換えに学生証を受け取ってください。その時、貸出図書と持ち込み図書等を提示してください。

2. 図書の検索

本館には次の①②の目録を用意しているので、これを利用して下さい。

① 冊子目録

a 新着図書速報（昭和44年6月以降受入の分類順排列の目録）

b 静岡大学誌目録（昭和33年7月現在、昭和34年3月発行）

c 購入雑誌目録（昭和34年度以降年別）

- d 他大学・学会・研究機関発行の各種目録類
- e その他内外一般の書類目録類

② カード目録
組織図

	和洋書別	目録の種類	検索要素	排列
本館※1	和書 洋書※3	著者	著・訳・編者※6	A B C順※9
		書名	書名・叢書名※6	A B C順※9
		分類	主題※7	分類順
旧制静岡高校※2	和書 洋書	著者	著者	五十音順
		分類	主題※8	分類順
		分類	主題※8	分類順
旧西部分室	和洋書※4	書名	書名もしくは叢書名	A B C順※9
		分類	主題※7	分類順
旧教育学部	和書	分類	主題※7	分類順

図書所在位置表示図

※11ガイドカード	※12押印	図書所在位置
第一閲覧室	開架	4階書架
第二閲覧室		
参考図書室	参考	3階書架
	指定	2階書架
(なし)	(無印)	書庫

備考

1. 「本館」とは、中央図書館として収集した資料を指す。
2. 旧制静岡高校蔵書は昭和24年出版までの資料だけです。
3. 本館の目録は和書、洋書それぞれ3つに分かれています。
4. 旧西部分室の目録は和洋書混排です。
5. 本館の著者目録は、著・訳・編者をほぼカバーしています。
6. 書名・叢書名は全てをカバーしているわけではありません。
7. 分類位置の確認には「関連索引」を利用して下さい。分類は「日本十進分類法 6版」を使用しています。
8. 旧制静岡高校の分類は、和洋書共に独自のものです。
9. アルファベットは訓令式を採用しています。
10. 外国人名は原則として原綴りですが、ロシア人はローマ字に直してあります。
11. 各カードの前にある三角形のカード。
12. カード右肩に押印。

カード目録検索法の例

- ①著・訳・編者(例 ⊕ Peano、小野勝次、梅沢敏郎)、書名・叢書名(例 ⊙ 数の概念について ⊖ 現代数学の系譜)、主題(例 ④ 4 10.1-数学理論、基礎論)がわかっている場合には、各々著者目録、書名目録、分類目録を調べて下さい。(下図参照)

④410.1 P 31 ⊕Peano, Giuseppe (1858-1932)
 ⊙数の概念について ペアノ著 ⊖小野勝次、梅沢敏郎訳・解説
 東京 共立出版 昭和44年(1969)
 188P 図版 22cm ⊖(現代数学の系譜 2)

- ②個人の全集、著作集、選集(以下全集ものと略す)が出版されている場合、各著作については著者で調べて下さい。全集ものに含まれる各著作の書名は書名目録から省かれています。(下図参照)

918.6 N 58 2 Natume, Sōseki.
 夏目漱石 (1867-1916)
 漱石全集 第2巻
 東京 岩波書店 昭和41(1966)
 950P 図版 23cm
 内容
 第2巻 短篇小説集
 倫敦塔、カーライル博物館、幻影の盾、琴のそら音、一夜、羅露行、趣味の遺伝、坊っちゃん、草枕、二百十日、野分

- ③著者多数の図書(例、「世界文学全集」、「世界の名著」)は、全集名で調べて下さい。各著作の書名は書名目録から省かれています(下図参照)

080 Se 22 46 Sekal no meityo. 46
 世界の名著 第46
 東京 中央公論社 昭和 41 (1966)
 630P 図版 18cm
 内容
 第46 ニーチェ(手塚高雄編)
 ニーチェの人と思想(手塚高雄編)
 ツァラトゥストラ(手塚高雄訳)
 悲劇の誕生(西尾幹三訳)

- ④叢書名が書名目録に見当たらない場合には、各書もしくは、各著者で調べて下さい。
- ⑤著者、編者もしくは執筆者が4人以上の場合、著者目録にあるのは、図書に最初に表示された人だけです。この人が書名で検索して下さい。

3. 館内閲覧

① 開架式図書

書架から自由に選択して閲覧できます。閲覧後、図書は元の書架に戻さずに、必ず、**図書返却台に置く**ことを厳守してください。
 雑誌は閲覧後、正確に元の位置に戻してください。

② 出納式（書庫内）図書

目録カードを検索して所定の閲覧票に記入のうえ出納台に提示してください。なお、その図書が文庫、新書、全書等の場合には必ずそのことを書名欄へ記入してください。

冊数 一時に**3冊まで**

受付 **9時30分～11時30分**

13時～16時30分

4. 館外貸出

最新号の雑誌および貴重図書ならびに禁貸出の辞典類を除いて貸出しますが、定期試験前その他特別の時には貸出を停止することがあります。

冊数 **2冊まで**

受付 **9時30分～11時30分**

13時～16時30分

館外貸出には、すべて館外貸出証を必要としますから貸出希望者は予め写真（学生証と同一のもの）1葉をそえて申込み、交付を受けておいて下さい。

返却を3回遅滞した場合には、その年度中の貸出が停止されます。

図書は貸出期間内に3階出納台に返却し、館外貸出証を受取つて下さい。

（手続）

① 一般開架図書・指定図書

各図書の裏表紙に装備されたブックカードに所定の記入をして、3階出納の係員に館外貸出証と共に提出して下さい。

貸出期限 **一般開架図書 7日以内**

指定図書 3日以内

② 出納式（書庫内）図書及び雑誌

図書貸出票（赤色）に必要な事項を記入して用いるほかは開架図書と同じです。

貸出期限 **7日以内**

③ 長期貸出

長い休暇期間を利用しての学習・読書のために、冬季休暇前に行ないます。長期貸出票に所定の記入を行ない、指導教官の印を受けて申し込めば、一定期間貸出します。この申込時期・方法等については、その都度掲示します。

冊数 **4冊まで**

〈サービス〉

本館では次のサービスを行なっていますので、利用の際は、いずれも3階カウンターに申

し出て下さい。

① 利用相談（レファレンス）

目録の案内や、資料検索の援助をはじめ、すべての問題や質問に応じられるように、百科事典、辞書、年鑑、書誌、索引などの参考図書を用意して、利用者にとって必要な資料への案内の仕事や、研究調査のための手がかりを提供することを主に行なっています。

② 相互貸借

本学内に必要とする図書資料がない場合には、全国各地の大学図書館から借用して利用することができます。これは図書館間で貸借することになっていますから、利用されるときは、本館3階カウンターに申込んで下さい。費用は申込者の全額負担です。国立国会図書館から借用したときは、返送費のみ負担することになっています。

③ 他館の利用

研究や卒業論文作成のための文献調査などの理由で、他の大学図書館の利用を希望するときは、必要事項を確認のうえ、「利用依頼書」を発行します。

④ 複写

複写機（電子リコピー）を利用するには、感光紙チケットを生協の文具コーナーで購入し、3階カウンターの文献複写係へ申し出て下さい。複写の対象となる図書は、静岡大学附属図書館所蔵の図書に限ります。

● チケットの種類（感光紙のサイズ別）

桃色—A 4判 （10円）

青色—B 5判 （7円）

緑色—B 4判 （14円）

●ゼロックス等の利用については、便覧『学生案内』の学内規則の項の「静岡大学附属図書館文献複写規定」を参照して下さい。

⑤ その他

●新着図書案内

3階カウンターのガラスケースに配架され、館内閲覧ができます。

●資料の購入

図書館に備え付けを希望する資料があれば、カウンターに用意された申込票に所定の事項を記入して提出して下さい。

●図書館への要望

図書館運営に活用したいので、積極的に

申し出て下さい。

〈利用上の注意〉

- ① 静粛にすること。
- ② 図書をなくしたり、汚したりしないこと。
- ③ 館内で飲食したり、指定以外の場所で喫煙しないこと。
- ④ 印刷物、その他の物品を配布したり、会合を開いたりしないこと。
- ⑤ 許可なしにポスターや掲示を貼り出さないこと。
- ⑥ 下駄、その他騒音を発する履物で入館しないこと。
- ⑦ 一時退館の際、鍵を受付に預けること。
- ⑧ ロッカー鍵は受付を通るときその都度提示すること。

■浜松分館利用案内

浜松分館は、浜松市城北3丁目にある工学部、電子工学研究所、工業短期大学の三部局を奉仕対象とする複合分館です。

現在の分館の施設は505㎡で、閲覧席100席、書庫延べ328㎡、事務室等が含まれています。近い将来、新しく分館としてふさわしい建物がつくられる予定です。

各系統別に5図書室（機械精密系・電気系・化学系・電子研・短大）が設置され、専門的学術雑誌を中心に閲覧に供しています。

図書館の開館時間は8時30分から17時（土曜日は12時30分）までですが、火・金曜日は19時まで夜間開館を行い（休暇中を除く）利用者の便宜を図っています。

閲覧形式は、出納式と開架式の併用ですが、利用の多い理工系新刊書、参考図書（辞典、便覧類）新刊雑誌は開架式です。

本学学生は、静岡の本館と同じ閲覧規程に従い、一時に2冊以内で7日間、館外貸出を受けられません。

出納式の場合には、著者名・書名・分類のいずれかの目録カードにより検索して、所定の用紙に記入の上提示して下さい。

著者名目録は、著者名を標目（見出語）とした目録で、著者名のアルファベット順（ロシア語は別置）に配列されています。翻訳書は原著者の原綴りを標目にとり、訳者は副出されています。

分類目録はNDC分類法（日本十進分類法）によつて分類された目録です。

購入希望図書、図書館の利用等についてお気付きの点があれば、館内投書箱に投書して下さい。

この図書館の運営は、分館長を中心として、教官の中から選ばれた6名の図書委員会でなされ、予算編成、図書・雑誌の選択など重用問題が協議されます。事務職員は7名で受入・整理・奉仕に携わっています。

■農学部分館利用案内

農学部分館は県立農科大学当時講堂の東側へ隣接して建られた300㎡許りの木造平屋建の建物で、館員5名が30,000冊余りの図書と700種の雑誌類を蔵した書庫を背に、後期課程学生、大学院生400名の積極的な利用を待っている。閲覧規則等は本館同様であるが、そこはそこ「小さいことは良いことだ」と中々親身なサービスも期待できる。従来は雑誌のみを自由閲覧としていたが、昨年からは要望に応じて参考図書と新刊図書をノーチェックで開架方式にすることにした。

これなどは全く利用者が信頼されて、教職員同様農学部の一員として溶け込んでいるからであろう。

しかし、利用者にとつて残念なことも無い訳ではない。学部は後期課程以上を対象とするために、蔵書の殆んどは自然科学、産業と社会科学の一部と言う専門書によつて占められているので、息抜の読書が期待出来ないことである。それ故精々片山時代に、じつくりと読書の楽しみを味わつて来てもらいたい。

しかし、これも2、3年後に農学部が片山地区へ移転統合された暁には解消されるため、あと少しの御辛棒と言うのが現状である。

■私のすすめたい本

所、武谷、堀米、島田の本

三浦弘万

生命を育み、人生を生きぬき、織りあげていこうとする者にとって、どんな本が読まれていくであろうか。ある学生が所美都子の遺稿をあげた。「コウジカピ胞子の老化について」を付録に収めるこの本は、科学とはなにか、人間とはどうあるべきかなどを、強く問いかけてくる。資本主義の勃興期以来、私たちのなかに築かれた「科学」の論理において、いまや、AはBであるという形で、両者の必然性がいわばア・プリオリに措定され、私たちのB以外のCやDへの思考経路や欲求は顧りみられなくなる面がある。また、資本の利潤追求のもとで、その生産管理機構の柱として、「科学」や疑以合理主義が必要とされる面を、否定することはできない。これらの「科学」の人間支配に対して、いかに人間をとり戻すかが問われている。

科学の発展を振り返ると、武谷三男らによって、対象の構造的把握に実体概念が導入され、さらに実体と機能の統一的把握への進展がみられた。彼は、物理学の発展は、第一に即自的な現象論的段階、第二に向自的な、なにかがいかなる構造にあるかという実体論的段階、第三に相互作用のもとでいかなる客観的法則ないし運動原理に従って運動しているかという即自的かつ向自的な本質論的段階、これらの絡み合いにおいておこなわれた、とする。科学において現象論的段階を科学のすべてと考えては固定化に陥るのであり、三段階を分析の基本的指標として、未知の領域の問題についての手本の出ていない原理の追求の重要性が、呼び掛けられている。例えば、技術について、これを単なる生産手段の体系としてでなく、本質概念における「行為を可能ならしめる実践」「客観的法則性の計画的・目的意識的な適用」とする。このような彼の技術論によつて、人間の社会的実践が客観的な法則性を拠り所に成立することが示されている。

歴史学では、客観的な実在の歴史を、分析と総合によつて、相対的な正確さをもつ、構成された歴史を通して明らかにしようとする。歴史研究者は迷いもちつつ、人間の営みが歴史的社会的存在であるという前提をふまえ、歴史を創造する立

場から、歴史を可能な経験範囲内で本質において掴もうとする。その際、堀米庸三は、「昭和史」論争を集約して、人々がどんな歴史のうねりのなかで生きてきたかという「複雑な人間活動の総体如何」の問題解決の過程において、私たちが出来事を自分で判断しなければならない場合、本質規定と同時に、個別規定はどのようになされるか、本質的な客観的法則は偶然性を媒介にして現象するが、出来事に共通した内容を抽出したあとに残された、個々の出来事に属する性質を、どのように捉えていくかを問う。出来事の多様性の把握と判断主体の複眼的視野が必要であるとされる。従つて、歴史的把握をする場合、出来事の生じた時点時点で身をおき、操作の厳密な自覚のもとに、論理的に、客観的可能性の範疇を用いて、法則性と偶然的要因との関係、さらには両者の相互矛盾と統一の関係上に、出来事の実体と本質を見出していこうとする。なお、その範疇を理念型と処理してよいかは問題が含まれる。歴史的社会的存在である人間が、共通の場を確立する過程に、客観的可能性の明察が求められている。

対象の本質的認識が科学の本質にかかわり、これによって目的意識的に実践がなされうる大学の場は、どのようなだろうか。12、13世紀以来、学問に携わる人々の組合（特権、ナツィオン制、バチェラー、マグィステルなどの階層性をもつギルド）として形成された大学は、特権がフランス革命によつて廃止の対象とされ、1848年の3月革命では、学生と一般市民との間の障壁を除くことが主張され、大学裁判権は放棄しなければならなかった。代って、大学は直接政府の統制を受ける専門学校化した。こうしたなかで、本来ギルド的要求から生まれた大学の自治という古い皮袋に、いかに新しい内容を盛りこむことができるか。19世紀以降、神学から哲学等へ中心が移るにつれて、人々は学問の世界に参加することになった。学生も教師も、大学の社会化の過程に、各自の創意の芽を申し合つていく姿を、根底的に見据えていかなければならぬであろう。

所美都子『わが愛と叛逆』前衛社（1969）

武谷三男著作集（『弁証法の諸問題』～『自然科学と社会科学』全5集）勁草書房（1968～1970）

堀米庸三『歴史と人間』日本放送出版協会（1965年）

島田雄次郎『大学とヒューマニズム論』勁草書房（1970年）
（教養部歴史助教授）

